

平成28年11月25日
(2016年)

保護者の皆さまへ

吹田市立青山台中学校
校長 田 中 実

平成28年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、3年生を対象として「平成28年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は中学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と数学に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった3年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にしていただけますようお願いいたします。

1 教科に関する調査結果の分析

●国語《概要》

◎国語A（『知識』に関する問題）

どの領域でも、全ての設問において全国平均を上回っていることから、出題された学習内容を十分に理解していると考えられる結果であった。

特に「読むこと」の領域では、無解答がなく、意欲的に取り組んでいることが伺える。

また、「言語についての知識・理解・技能」については、すべての設問における正答率が全国平均に比べて高く、言語事項の定着ができていることがわかる。

◎国語B（『知識の活用』に関する問題）

生徒の平均正答率は、どの観点においても、全ての設問で全国平均値を上回っている。

しかし、「国語への関心・意欲・態度」「書くこと」を問う設問においては、A問題に比べると、無回答率が高くなっている。一方で、全国平均に比べると無回答率は低く、意欲的に学習に取り組む姿勢が伺える。

また、「読むこと」において、図鑑の説明を読んで記述式で答える問題においては、平均正答率は全国平均を上回っているが、長文読解に課題があると考えられる無解答の生徒も多く、今後読解力を伸ばしていく必要性があると思われる。

●国語《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

- ・漢字や同音異義語などに対する正答率は高かったため、今後も維持していけるように努める。
- ・全体的に読解力はあるが、今後は長文に対しての読解力を更に伸ばせるようにする。
- ・生徒自身の考えを書く問題において、無回答率が高くなる傾向にあるので、書く活動を増やし、言語活動の充実をはかる。

●数学《概要》

◎数学A（『知識』に関する問題）

生徒の平均正答率は、全国平均を全ての項目において上回っており、十分に学習内容を理解し、定着しているものと思われる。

また、無解答率が非常に低く、そこからも意欲的に学習に取り組んでいることが伺える。

◎数学B（『活用』に関する問題）

A問題同様、全ての項目において、平均正答率が全国平均を上回る結果となり、十分に学習内容を理解し、定着しているものと思われる。

また、無解答率についても低く、意欲的に学習に取り組んでいることが伺える。

「数と式」の領域の説明をする問題では、全国平均は上回っているものの、課題が残るものがあった。

●数学《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

- ・数学への関心、意欲は非常に高く、より高度な内容を要求する姿勢が伺える。更に、数学的なものの見方や考え方を鍛えるため、いろいろな課題に取り組んでいきたい。
- ・全ての項目において、課題とされるものは特に見られなかったが、より数学の概念が定着するように努めたい。
- ・生徒ひとり一人の学力を正確に把握し、的確にアドバイスを行う取り組みを継続する。
- ・数学を楽しいものと感じるよう、わかる授業を目指し、生徒の反応を確かめることが重要である。

2 生活習慣や学習、学校生活及び自分自身のこと等に関する質問紙調査の傾向

【生活習慣や学習について】

- ・「朝食を毎日食べている」生徒の割合は高く、ほとんどの家庭で、朝食をとり登校する生活習慣が定着している。
- ・平日及び休みの日の勉強時間は、全国平均より多く、学習意欲の高さと、学習習慣の定着が伺える。
- ・携帯電話やスマートフォンへの使用時間は全国値より少ない。

【学校生活や自分自身について】

- ・「学校に行くのが楽しい」との設問で「そう思う」と答えた生徒が多く、全国値より高い結果であった。
- ・「人の役に立つ人間になりたい」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」「友達との約束を守っている」という設問では、全国及び大阪府の平均値をやや下回る結果となり、今後更に道德の授業等で、他者理解や思いやりの心の育成に努めていきたい。
- ・「自分には良いところがある」など、自分自身のことを問う領域の設問では、肯定的な回答が全国平均を上回り、自己肯定感が強いことが伺える。特に、「ものごとを最後までやり遂げて、嬉しかったことがありますか」との設問に、ほぼ全員が肯定的な回答をしており、成功体験から自信をつけ、前向きに取り組む姿勢へと繋がっていると思われる。

3 今後の取り組み

本校の学校教育目標「豊かな人間性を育む」「主体的に学習する態度と自主性を養う」「たくましく生きるための力を育む」を達成すべく、今回の調査結果をしっかりと分析し、今後の教育活動に活かしていきます。

教科に関する結果を踏まえ、具体的な取り組みとしては、習熟度別少人数授業やティームティーチングなど、ひとり一人に応じたきめ細かな指導や、わかる授業の工夫と、学ぶ意欲を高める授業づくりをさらに進めてまいります。

また生活習慣や学習等に関する質問紙調査の結果を踏まえ、生徒の生きる力（総合的人間力）の育成のため、自己有用感とコミュニケーション能力を高める行事や、アクティブラーニングを取り入れた授業に取り組むたいと思います。同時に道德の授業や人権教育、体験学習による心の育成にも力を入れ、生徒の自立を促す幅広い学習の機会をつくりたいと思います。ご家庭におかれましても、今後ともご理解とご協力の程よろしくお願いいたします。